

おだわらの未来をデザインする 100人ワークショップ 参加者募集!

まちがあなたを求めています

＜開催趣旨＞

お城通り地区再開発事業として、現在の東口駐車場の旭丘高校側に、立体駐車場の建設を計画している。その1階部分には、小田原駅周辺に点在する3つの市民活動支援施設を集約するとともに、小田原市民会館の会議室機能を担う、新しい市民交流施設「(仮称)市民活動交流センター」を設置することとして、平成27年の供用開始を予定している。
このワークショップは、市民の力を活かしたまちづくりの未来像を市民と共有するとともに、新しい施設のあり方について市民と協議し、整備計画に反映することを目的として開催した。

＜主催＞

小田原市地域政策課・企画政策課
＜協力＞
一般財団法人 小田原市事業協会
NPO法人 市民活動を支える会

■コンセプト



＜新しい市民交流施設の計画について＞



小田原市民会館



おだわら市民活動サポートセンター



おだわら女性プラザCHAT茶っと



おだわら国際交流ラウンジ

お城通りに集約



(仮称)市民活動交流センター(1階部分)

会議室機能

第1回「まちびと」と であう 10月26日(土)

参加者数 70名
市民活動団体 25名、行政関係 16名、事業協会 10名
一般参加者 19名(うち議員 2名、商店関係 2名、企業関係6名、大学生 2名、大学関係 2名、他5名)



講師:興石 範子(のりこ)のりこ
Life Creator Laboratory代表
企業組織変革、人材開発コンサルタント。組織の横断プロジェクトを強みとしており、多様な人材が交わることで変化・変革が生まれると考える。企業と地域をつなぐため、2012年国分寺市内で市民参画ワークショップ(らぶらじワークショップ)を企画・実施。

＜講演＞みんなでまちを「使う」 国分寺100人ワークショップの実践から

国分寺で展開する、市民参加のまちづくりプロジェクトを紹介。100人ワークショップの中から企画された5つのプロジェクトを、市民自らが進行しています。見てきたのは「まちづくりの壁」。課題とらえない、まちづくりが自分事になっていることが重要です。また、企画が行動に結びつこう、全体を把握するコーディネーターが、市民同士の活動をつないでいくことが大切です。

＜ワークショップテーマ＞

「“つながり”から生まれる価値を体感する」

- Q1. 興石さんの話を聞いて気づいたこと、共感したこと
- Q2. 何かをやりたい、活動したいときに踏み出せなかったこと、思いを実現するときに課題に感じていること
- Q3. 「であい」「つながる」ために大切にしたいこと



＜多様なつながりによる意見交換(模造紙から抜粋)＞

＜小田原の現状や課題＞

- 安定を求める 現状に満足 失敗を恐れる
- 行政は縛りがあると感じる 市民活動の成果が意外に出ない
- 商売をしてまちづくりはわからないの
- まちづくりと自分の活動がつながるのか?
- 参加していない人のニーズをどう吸い上げるのか?

＜「であい」「つながる」ために求められること＞

- (場) 人が集まるオープンな場
- 相手の意見を聴く
- リラックスして話して大事
- (人) マッチングコーディネーター
- 外部の風を入れない
- つなぐ人が必要

＜つながりと協働＞

- 批判的じゃなく協働
- 活動が点から線へ
- きっかけを大事にする

＜つながりから生まれる価値とは～新しい施設に向けて＞

- ハコモリだけでなく 外に出る
- 人が集まる面白さが原点
- 定期的にワークショップをやろう
- 交流センターの機能を各地域に
- 民間の施設なので自由度がある
- 市民の力で打破する
- 活動を多くの人に知ってもらおう
- 若い世代の参加を増やす
- コミュニティビジネス
- 企業とのコラボレーション
- まちの経営的視点をもつ

多様な参加者が集まり、横のつながりの大切さを体験した。ワークショップは、市民におだわらのまちづくりについて問題提起をし、参加者からは交流の場の継続が望まれた。

第2回「まちびと」と つながる 11月16日(土)

参加者数 57名
市民活動団体 24名、行政関係 14名、事業協会 4名
一般参加者 15名(うち議員 1名、商店関係 0名、企業関係 1名、大学生 6名、大学関係 3名、他4名)



講師:前田 成東(まえだ しげと)しげと
東海大学政治経済学部教授
2013年4月より政治経済学部長。専攻は行政学で、公共サービスの供給体系、第三セクター、市民活動などについて研究。現在、小田原市市民活動推進委員会委員長、川崎市指定特定非営利活動法人審査会長、八王子市都市政策アドバイザーなどを務める。

＜講演＞多様な“市民”の力が地域を活かす 市民活動のひろがり

市民活動と言えば、団体によるボランティア活動と思われがちですが、今やその形は様々。町内会の手伝いから、NPOで事業化まで関わり方も幅広く、個人や、企業による社会貢献活動も、市民活動は、行政にある縦割りや年度の壁を越え、より自由な立場で公共を担える重要性があります。無理をしないで、続けられることが大切。そのためにも、事業としての仕組みを整えることも重要です。

＜ワークショップテーマ＞

「それぞれの思いと活動を共有する」

- Q1. 自分の活動を振り返りながら、課題を探求・共有する
- Q2. 課題解決に向けてありたい姿をえがきます
- Q3. 実現したい状態に向けて具体的な取組やアイデアを出す(1人1人、今の活動や思いを共有するシートを制作し掲示)



＜市民活動における課題と解決策(模造紙から抜粋)＞

＜市民活動に感じている課題＞

- ＜活動目的の課題＞
 - 市民活動に踏み出せない
 - 理念の共有がなかなか進まない
 - どこに向けて活動するのか
- ＜集客の課題＞
 - 地域活動に人が集まらない
 - 会員拡大したい
- ＜場の課題＞
 - 「困っている」を表現する場
 - 場所が自由に使えない
- ＜外部との連携の課題＞
 - 人間関係の調整が大変
 - 事業者の理解が得られない
 - 他の団体との交流不足
- ＜担い手の課題＞
 - メンバーの高齢化
 - 時間が合わない
 - キーマンがいない
 - 決断力に欠ける
 - 負担が大きいとモチベーションが保てない
- ＜情報共有の課題＞
 - 自分の考えが伝えにくい
 - 宣伝力不足
 - Webでは、高齢者に届かない
- ＜運営や資金の課題＞
 - 活動資金が足りない
 - 協賛金が年々減少している
 - 次年度の見通し立たない

＜課題解決へのきっかけ＞

- 活動が地域とつながる方法を考える
- SNSや掲示板の活用
- 体験談を集める
- 地域の情報を集約
- NPOにPDCAサイクルを教える
- 活動資金を得るしくみづくり
- 若者の生活基盤となる活動にする
- まちづくりワークショップの継続
- コーディネーターの必要性
- 情報を誰でも見れるように
- 大学や企業との連携を模索
- 市民活動と行政の協働促進

市民活動において、担い手の高齢化、外部との連携不足、人集めの課題、運営資金の不足等、各活動に共通する課題を発見した。これらの解決に向けた取組が求められている。

第3回「まちびと」と えがく 11月30日(土)

参加者数 73名
市民活動団体 28名、行政関係 16名、事業協会 9名
一般参加者 20名(うち議員 2名、商店関係 2名、企業関係 4名、大学生 2名、大学関係 2名、他8名)



講師:治田 友香(はるた ゆか)ゆか
関内イノベーションイニシアティブ(株)代表取締役
NPO法及び認定NPO法人制度の創設及び改正に向けた運動など、営利・非営利の区分けなく起業家支援、プロジェクト支援に取組む。2011年3月にmass×mass関内フューチャーセンターを開設。地域課題を多様な立場の人たちによって解決する、起業家のインキュベーション施設を運営している。

＜講演＞まちづくりの思いをカタチにする 「ソーシャルビジネス」という方法

社会的企業とは、地域課題の解決に向けて、収益を上げつつ継続的に取り組む事業体のこと。NPO法人に限らず、個人事業主、株式会社等形態は様々。公共サービスや市場では補いきれない様々な地域課題を解決するため、社会起業家が求められています。市民団体から成長し、福祉マンションを運営するNPO法人等、金融機関や行政と連携して事業化に成功した事例等、先進事例を紹介。

＜ワークショップテーマ＞

「まちづくりの思いをカタチにする」

- Q1. 治田さんの話を聞いて気づいたこと、感じたこと
- Q2. まちづくりの思いをカタチにしていこうと大げななこと(右下の共有シートをグループごとに作成し、全体で投票)
- Q3. 投票結果をもとに、各テーブルの議論を会場で共有する



＜まちづくりの想いをカタチにする方法(共有シートから抜粋)＞

- ＜社会貢献活動の意義＞ 「何を実現するか」
 - 共通の目的 ビジネスの共有を持ち
 - それぞれの特技が地域を支える 13票
 - 目的意識をもち、社会のニーズに対応させる 4票
 - 地域の課題を解決する 1票
- ＜多様性＞ 「どんな人々が、」
 - 分野を越える 15票
 - 多様性の尊重 9票
 - 互いを認め合う 4票
- ＜共生＞ 「何を指して」
 - 社会的自立と経済的自立 5票
 - 社会的弱者は社会的資源 4票
 - 共生できる社会 3票
- ＜シェア＞ 「つながりながら、」
 - 人がつながる、共有する 3票
 - 集まっている中に活動の場を作る 4票
 - 人が集まるしだけ 5票
- ＜人材＞ 「誰の協力を得て、」
 - コーディネーター機能 5票
 - つながりを促す運営者 5票
 - 必要な支援を分析する 5票
- ＜情報＞ 「どう伝える」
 - 情報、PRの必要性 4票
 - インターネットの活用 1票

＜事業体の運営＞ 「自立した事業への成長」

- 活動持続のための運営モデルを構築 20票
- 収益のしくみや資金調達 15票
- 収益を得る活動に成長する
- 非営利活動でも運営できるしくみ
- ＜協働＞
 - 行政とつながる 3票
 - 外部との連携 3票
 - 市民から政策提言

個々の活動が、持続可能で社会の課題を解決する活動として発展するために、分野を越えて活動をつなぎ、行政等と連携しながら、活動団体を支援する機能が求められている。

参加者からのアンケート集計結果(抜粋)

Q2-1 興石先生の話について感想

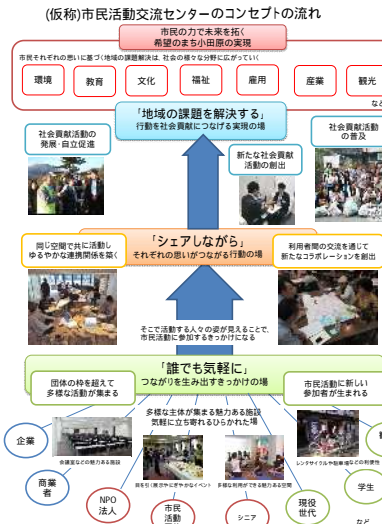
- ・人との出会い、つながりの大切さがわかった
- ・まちづくりの大変さ、面白さがわかった
- ・市民の立場で活動できることに気づかされた
- ・一歩を踏み出すこと、実践の大切さを感じた
- ・小田原らしくまちがつけられたらいい
- ・会社・商店街とともに考えることがとても良い

Q2-1 前田先生の話について感想

- ・市民活動についての話がわかりやすかった
- ・小田原としての例題がほしい
- ・市民活動も「起業、なんだ
- ・市民活動をひとつのシステムに捉えた時の評価方法について、もう少しクリアな議論を聴きたい。
- ・もう少し事例を聴きたい(時間が短い)

Q3-1 治田先生の話について感想

- ・市民活動の一步先が見えた
- ・ボランティアから起業家になれるかも
- ・女性や高齢者、障がい者など、社会的に弱い立場の人達を社会につなげていきたい
- ・活動が継続するには経済的自立も必要
- ・他の団体や行政と良好な提携関係が必要
- ・現実的には、資金調達や運営の課題が山積
- ・社会起業には、しっかりした支援体制が必要
- ・「場づくり」「パイプ役」が必要
- ・活動に資金を出してくれる協力者さがし



どんな人が参加している？今後、参加してほしい人は？

Q1-2 参加者の現在の活動

- ・市民活動
 - ・子育て支援
 - ・防災活動
 - ・日本語教室
 - ・文学のまちづくり
 - ・障がい者支援
 - ・観光ガイド など
- ・大学生
 - ・(社会福祉、建築、都市デザイン)
 - ・大学院生
 - ・まちづくりNPO
 - ・商店関係
 - ・福祉施設職員
 - ・公認会計士
 - ・メディア関係
 - ・スポーツクラブ運営
 - ・デザイン事務所
 - ・社会保険労務士
 - ・都市セールス

Q1-6 ワークショップに来てほしい人

- ・新しい参加者
 - ・学生(大学生、高校生)、若者
 - ・子育て中の女性など、色々な年代の人
 - ・今まで市民活動に関心なかった人
- ・分野の異なる活動
 - ・サボセンと関わっていない活動、NPO法人等
 - ・社長、企業の社長、商店、金融関係
 - ・芸術家、デザイン、福祉、介護
- ・専門家
 - ・地域外の第三者
 - ・市民活動の実践者
 - ・コミュニティ・デザイナー

<市民活動に感じる課題(概略)>

- ・市民活動の認知や新しい担い手不足
- ・メンバーの高齢化・固定化
- ・活動団体間の相互連携の不足
- ・活動資金や事業化ノウハウの不足
- ・外部の活動との協力関係が不足(大学、学校、商業者、企業など)

これらの課題解決により、市民による活動を活性化できるのでは

参加者のみなさんにとって、新しい施設をとおして何を実現したい？

Q3-3 他の活動と協力したい取組み

- ・活動のしくみづくり
 - ・常に交流できる場づくり
 - ・意見交換をすることの結果として、可視化する
 - ・ボランティアに時間と資金を注ぎたい
 - ・社会奉仕につながるしくみづくり
 - ・小田原市で展開されている活動の実態調査
- ・新しい事業の展開
 - ・様々な分野の活動をつなげてイベントをしたい
 - ・店主ら協働での講座や、自立支援の取組み
 - ・商店街の空き店舗を活用した居場所づくり
 - ・新しい施設から駅前への活性化につながる事業
 - ・観光のアピール

Q1-3 新しい施設をとおして実現したい事

- ・活動から地域に広げること
 - ・人と人がつながれる場
 - ・仲間を増やす
 - ・一歩を踏み出すためのきっかけになる施設
 - ・「しんどい」活動が少し楽になる
 - ・人の生きがい、やりがいを生み出す
 - ・雇用の創出
 - ・文化的な意識の向上
- ・個性を活かした事業
 - ・各団体主催の講座、イベントプロモーション
 - ・小田原らしさを活かした新しい名産品をつくる
 - ・市民活動 = ボランティアから、プチ起業を育てる仕組みを小田原に創る
 - ・気軽に立ち寄れる法律相談コーナー
 - ・地元の会社、商店街、サークル等のPR など

Q2-2 自分の活動や今後やりたいこと

- ・社会貢献活動の普及
 - ・若い人との市民活動の関わり
 - ・活動を知ってもらい、メンバーを増やしたい
 - ・口コミや人同士のつながりが有効
- ・現在の活動の発展
 - ・平和活動を知ってもら場づくり
 - ・アートで地域活性化
 - ・男女共同参画の推進
- ・活動の支援体制の充実
 - ・現サポートセンターのPRが不足
 - ・様々な市民活動を適正に評価できる人材の専門家ネットワークづくり
 - ・リーダーシップスキルを磨く場づくり

Q3-2 WSから今後に活かしたい事

- ・横のつながり、点から線への視点の大切
- ・困っている人と助けられるひをつなげる
- ・どんだん自主企画で行動を示す
- ・情報交換できる場を常設で作ってほしい
- ・今、デザインの仕事をしたい、行政と関わることで社会に向けた取組をしていきたい
- ・個人の力量をどうアップするか
- ・調査研究を活かしたい
- ・市民活動にPDCAサイクルを教える場づくり

どんな市民交流施設が求められているか？

Q3-4 施設に必要な機能や事業

- ・相談支援
 - ・コーディネーター、専門的な助言のできる人
- ・協働支援
 - ・カトリック、活動の発表会、展示販売の場
 - ・専門家や大学を紹介しえももらえる
- ・学習体験
 - ・駅前で大きな研修場、特技の発表の場
- ・交流・コーディネート
 - ・定期的な交流企画、他団体との交流の場
- ・情報集約・発信
 - ・色々な人達が集まるようなPRや、成果を広報
 - ・人材バンク機能、登録団体がわかるしくみ

Q2-3 新しい施設をこう使いたい

- ・集客(情報発信)機能
 - ・ふらっとお茶ができる、自由に交流できる
 - ・障がい者の参加促進、外部の人にも開けた施設
 - ・若手アーティストの発表の場
 - ・活動紹介の常設ブース、ジャンルごとの掲示板
- ・交流機能
 - ・集いやすさ、食を通してのコミュニケーション
 - ・コワーキング、団体間の協働、人材バンク
 - ・文化継承、手仕事ができる工房、花などを飾る
- ・会議機能
 - ・電源、無線LAN、プロジェクターを使って打合せ
 - ・10名前後の小会議室、カラフルな交流ルーム
 - ・合唱の練習場所、学びの場、テーブル貸し

Q1-4 新しい施設に必要なもの

- ・気軽に立ち寄れる、気軽に交流できる、カフェ
- ・ゴロゴロ座になれる場、飲食機能、広場
- ・考えを共有できる、壁面に書く会議室、掲示板
- ・情報発信機能、展示販売スペース、映像環境
- ・シェアオフィス、貸事務所、コワーキング
- ・利便さ、宅配取便取、長時間会館、清潔さ
- ・キッズスペース、バリアフリー、無料駐車場
- ・小田原のモノづくり体験

センターの6つの機能(中間支援機能)



新しい施設をとおして市民による社会貢献活動を支援

機能配置イメージ



施設開設に向けての動きについて

Q2-4 今後、参加者が集まる場への希望

- ・参加者
 - ・若者や、あえて無関心な人の参加、小中学生も
 - ・子育てをしている主婦の方の参加を増やす
- ・内容
 - ・テーマ、課題をしばって集まる、もっと時間をとる
 - ・色々な人と何でも自由に言える場
 - ・実際にコラボプロジェクトをスタートする
 - ・具体的なハードや施設の内容を話し合う
 - ・交流会的な場(活動事例発表会など)
- ・運営
 - ・参加者が自主的に活動できる場にする

Q2-5 新施設開設への準備

- ・ワークショップの継続、参加者のリスト化
- ・空間のデザイン(ふらっと立ち寄りやすい)
- ・情報のハブ化、オープン化、周知・広報活動
- ・3つの新施設の総合力をアップする話し合い
- ・既存のスペースでコラボ実験(プレ事業)
- ・市民活動の専門家ネットワークを構築する
- ・施設活用推進委員会を公募する

Q1-5 ワークショップ後の交流のしくみ

- ・定期的な交流会やワークショップ
- ・FacebookなどのSNSの活用
- ・活動内容がわかる名簿やメンバーリスト
- ・遠足、フィールドワーク、街歩き

100人ワークショップのFacebookを継続する



Q3-5 新しい施設で関心のあるもの

- 情報発信の方法やネットワークづくり 22票
- 活動団体間の交流 16票
- 大学や企業、行政など外部との連携 13票
- 施設の事業内容 12票
- 施設の予約方法や運営ルール 10票
- 活動資金が回るしくみ 10票
- 内装や備品、デザイン 8票
- 新しい施設を使ったご自身の活動展開 6票
- 施設の名前やロゴ、モニュメント等 6票
- レンタサイクルや観光 3票

<ワークショップの総括>

- ・平均67名が参加(123名がこのワークショップに1回以上参加)した。
- ・(仮称)市民活動交流センターの設置計画やコンセプトについて周知がなされた。
- ・分野を越えた活動同士の横のつながりの重要性が共有され、市民による新しい施設のビジョンが議論された。
- ・市民活動に関わりのなかった人、大学生、市外のまちづくり団体等、おだわらのまちづくりに新たな参加者が生まれた。
- ・商業者等の市民活動以外の団体への波及が今後の課題である。

<今後の計画の進め方>

- アンケート結果から、今後もこのワークショップのように分野を越えた活動をつなぐ交流事業が求められていることがわかった。
- 現在、参加に至っていない市民活動団体や、商業者、関係団体等の参加や、大学や企業などの外部の専門家等の協力を求めながら、施設の開設準備にかかるプレ事業の展開を検討する。
- Facebookからの情報発信を継続し、今回の参加者も含めた幅広い市民参加のもと、新しい施設を協議する取組を検討する。